

1. 科研費ニュース

令和6(2024)年度 東京未来大学の科研費採択状況(表1)とテーマ(表2)は以下のとおりです。令和2年(2020)年度から今年度(2024)までの5年間の採択状況の推移(図1)をみると、基盤研究(C)の採択件数は維持していますが、その他の事業区分は昨年度をピークに減少しました。今期は満期を迎えた研究が重なったので、以後、新規採択が増えることを期待しています。

表1 令和6(2024)年度 科研費採択状況

	件数	金額(円)	備考
基盤研究(C)	12	28,700,000	新規3件, 平成31(2019)年度以降継続11件
若手研究	2	7,200,000	令和3(2021)年度以降継続2件
	14	35,900,000	

注) 金額は直接経費

表2 令和6(2024)年度 科研費採択テーマ一覧 *2024年度新規採択

基盤研究(C)		(共同研究者)
鈴木 哲也	学校における動物飼育の歴史的・倫理的・法的課題と展望	
川口 めぐみ	大人の言語刺激がこどもの行動形成に与える影響-0歳から5歳の発達段階と行動分析-	
高橋 文子	教師教育における「芸術知」の方法論的解明-表象と感性の融合を図るプログラム開発-	
大橋 智	児童生徒の個に応じた学びを実現する遠隔通信技術を用いたアウトリーチの社会実装	
白石 雅紀	日本におけるマイノリティ集団間の複合と相克に関する当事者団体からの聞き取り研究	
山崎 善弘	姫路藩木綿専売制の実現過程と歴史的意義に関する総体的研究	
金塚 基	高等学校における応援部の活動役割を通じた教育機能の展開及び集団文化の再生産	岩崎 智史
大内 善広	父親の主体的な育児関与への動機づけを促す父親教室の参加経験に関する効果の検討	野澤 義隆
西村 実穂	水害発生時における保育施設利用者の安全確保および保育機能維持に関する研究	
*小林 久美	家庭科及び数学科の教科横断的学習に関する実践研究-教材開発および評価を通して-	
*中澤 純一	「社会正義の実現」を視点とした移民学習の教材開発と実践	田中 真奈美
*小林 寛子	ICTを活用した主体的な学習を促す支援法の開発	磯 友輝子, 埴田 健司
若手研究		
大村 美菜子	産後女性の化粧行為による機能変化	
橋元 知子	幼稚園の英語イマージョンクラスにおいて幼児の英語発話を促す要因と環境とは	

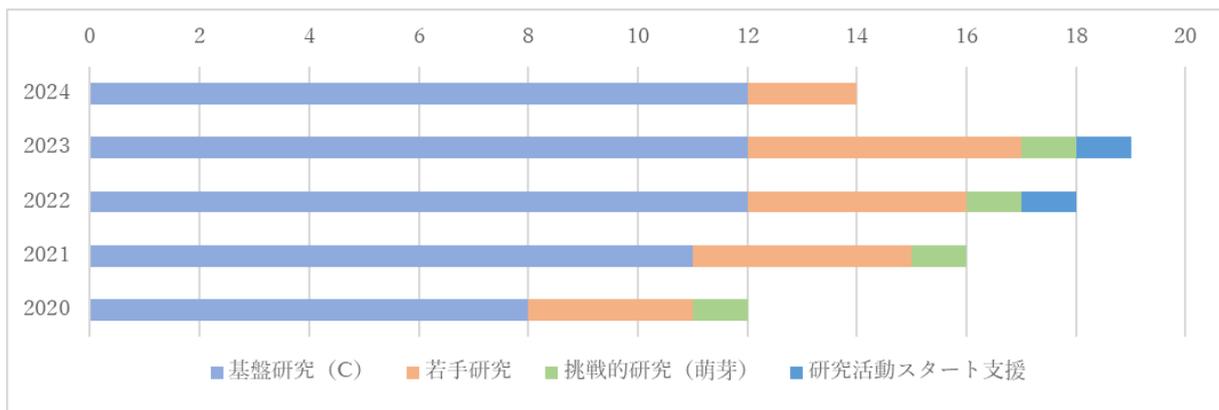


図1 令和2(2020)年度からの採択状況の推移(件数)

2. 令和6（2024）年度 新規科研費採択者の研究紹介

今年度、科研費を新規で採択された3名の先生の研究テーマと内容をご紹介します。

モチベーション行動科学部 中澤 純一



Q1 採択された研究テーマと概要、具体的研究方法や研究計画について教えてください。

研究テーマは「『社会正義の実現』を視点とした移民学習の教材開発と実践」になります。本研究では、「社会正義の実現」を視点として移民学習の教育的意義を再考し、マジョリティである日本人児童生徒及び外国にルーツをもつマイノリティ児童生徒の意識変革を促す教材開発を行い、開発した教材を授業実践にかけ、その教材開発の有効性を検証することを目的としています。

これまで日本の学校教育における「移民学習」の現状として、小・中・高等学校の教科書の記述をはじめとして「移民」に関する学習内容は希薄であり、児童生徒が日本人移民や海外の日系人について学ぶ機会は少ない現状があります。しかし、「移民」という事象は、今日の日本の課題である「多文化共生」を考える格好のテーマであると考えています。近代において多くの日本人が海外に移民した事実、逆に近年増加している日本への移民の現状や問題について日本人移民の歴史的経験に重ねて共感的に学ぶことは、今日の日本の多文化社会を生きる児童生徒にとって「共生」に向けての資質・能力を養う上で意義があると考え研究を進めています。

本研究では、第一に、「社会正義の実現」を包含した移民学習の教育的意義はどうあるべきか、第二に、マジョリティの日本人児童生徒が「社会正義の実現」を認識し意識の変革を促すにはどのような教材を開発することが有用であるか、第三に、マイノリティの外国人児童生徒がアイデンティティを確立し、「社会正義の実現」にむけて意識変革をめざす教材をどのように開発すればよいのか、3点を明らかにしたいと考えています。そこで、①今までに蓄積された日本の移民学習に関する文献から、理論及び授業実践の分析を行い、移民学習の教育的意義の再考及び開発されてきた教材の分析を行うこと、②カナダのバンクーバー及びブラジルのサンパウロにおいて、研究協力者と共に訪れ、現地の日系移民の現状を把握すると共に、日系関連施設・団体の関係者にインタビュー調査を行い、教材開発の手がかりとすること、③②のフィールド調査を基に、カナダ及びブラジルに渡った日本人・日系人に関する小中学校における総合的な学習の時間や教科学習において活用可能な移民学習の教材を開発すること、④開発した教材を学校現場で実践すること、⑤国内学会等での研究成果の発表を計画しています。

Q2 研究計画調書作成にあたって、工夫された点などアドバイスをお願いします。

私自身が科研の申請に慣れているわけではないので、科研申請に関する書籍を読みました。特に、『科研費 申請書の赤ペンハンドブック』（羊土社）を読み込み、研究計画調書に反映した書き方をしました。さらに、「応募者の研究遂行能力」を示す上で、研究業績は最重要と考え、これまで続けてきた研究を土台とし、今回申請したテーマとさらに一致する論文業績をつくるために2年前より論文執筆を行い、研究業績に記載しました。

Q3 研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

現在は、定期的に研究分担者及び協力者と研究会を開催し、移民学習の教育的意義をおさえた上での資料収集及び文献調査、先行授業実践の分析を進めています。また、今年度中には一回目の海外フィールド調査として、バンクーバーを訪問する予定で、日系カナダ人博物館・文化センターやバンクーバー日系人合同教会をはじめインタビュー調査を行ったり、教材開発にむけた素材収集を予定しています。



モチベーション行動科学部 小林 寛子



Q 1 採択された研究テーマと概要、具体的研究方法や研究計画について教えてください。

研究テーマは、「ICT を活用した主体的な学習を促す支援法の開発」です。

2020 年、新型コロナウイルス感染症対策で一斉休校の措置がとられたとき、私は一研究者として、子ども達の学習を支えるために何ができるかを、教育現場に立っている先生方とともに考えていました。国レベルの対策としては ICT 導入が進められていましたが、私たちの関心は、ICT 導入が不十分なその時点で、教科書などの「今あるツール」をどう活用して目の前の子ども達を支援するかでした。

その後、ICT 導入は進み、多くの子どもにとって ICT が学習ツールの一つとなりました。しかし、コロナの収束が見え、登校して授業を受ける「通常」が戻る中で、ICT の活用の仕方、特に家庭学習での活用の仕方は緊急の課題ではなくなったように感じました。「再び休校になった時点で ICT 活用を考えるのではなく、予め準備しておきたい。それは、通常の学習においても役に立つはずだ」と考え、何か参考になるものはないかと検討を始めて、通信制高等学校の存在に注目しました。

通信制高校では、ICT を活用した家庭学習が日常的に行われているはずですが、通信制高校生を対象とした研究の多くは、精神的健康をテーマとしており、学習に関する検討は少ないようでした。そこで、既に研究の進んでいる全日制高校生の学習と比較して通信制高校生の学習の特徴を明らかにするとともに、通信制高校で積み重ねられている ICT 活用の実践知を参考に、全日制高校でも ICT を用いた学習形態を創造していければよいと思って研究を始めました。なお、私は教育心理学・認知心理学の研究者ですので、研究の関心は ICT 学習ツールの開発ではなく、既にある学習ツールを学習者が主体的に使う力を身につけていけるよう支援していくことにあります。

Q 2 研究計画調書作成にあたって、工夫された点などアドバイスをお願いします。

通信制高校生を対象とした研究の多くが精神的健康をテーマとしていることから、通信制高校生に学習に意欲的に取り組んでもらうためには、内発的動機づけを支えるさまざまな心理的要因にも配慮しなくてはならないと感じました。この点に関しては、モチベーション研究所の연구원として、磯先生や埴田先生と研究を行ってきていたので、お二人にお声がけし、一緒に研究していただくことになりました。

私が最初に作成した研究計画調書は、書きたいことや書かなくてはならないと感じることが多く、内容が盛りだくさんで、その割に要点が伝わらないものになってしまっていました。それを、二人の先生方がうまく情報整理して、研究の独自性や創造性をアピールできるものにしていただきました。私は、科研費を共同で申請するのは初めてなのですが、早々に共同研究の良さを感じています。

また、事前に通信制高校の先生にインタビューさせていただき、学習の様子をうかがったり、どのような方法で調査や介入研究が可能かを質問させていただいたりしました。その経験も、実現可能な研究計画を立てる上で非常に役立ったと思っています。ご協力いただいた先生や仲介いただいた方々に感謝しております。

Q 3 研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

1 年目は、通信制および全日制高校生の学習の相違を調査することを目的にしています。現在、予備調査として行っていた、通信制高校生へのインタビューが終了したところです。インタビューを通して、通信制高校生の学習の仕方やそれに影響する要因について、全日制高校生との違いが少しずつ明らかになってきました。今後は、通信制および全日制高校生を対象とした質問紙調査を行い、立てた仮説を検証していくこととなります。

2・3 年目は、調査結果をもとに、通信制・全日制それぞれにおいて、ICT を活用した学習を支援する方法を検討していきます。学習者にとっても、教育現場に立つ先生方にとっても有益な研究になるよう努力していきたいと思っています。



こども心理学部 小林 久美



Q 1 採択された研究テーマと概要、具体的研究方法や研究計画について教えてください。

この度採択された研究テーマは、「家庭科及び数学科の教科横断的学習に関する実践研究 -教材開発及び評価を通して-」で、数理的認識と生活認識の統合型授業開発を行い、STEAM 型教育の新規カリキュラムの可能性を探求することを目的としています。教育現場では小中学校の総合的学習の時間に加え高等学校においても探求の時間が創設され、まさに今注目の内容です。具体的には、①家庭科と数学科を統合した教材開発を行い、授業を実施し、子どもの学びを評価することと、②統合を進めるために実践後の研究者・実践家の省察を分析し、教科横断に関する意義や課題を明確化することを目指しています。

今回は、私が単独で申請したのですが、実はこれまでに多くの先生（学内外や教育現場の先生）と共同で授業を作り、保育現場や教育現場で実践を行ってきました。これからも各領域の統合の度合い Thematic、Interdisciplinary、Transdisciplinary を用いて、各教育段階において可能な題材（単元）についてさらに精査し、それぞれの題材に適した教材を作成、実施予定です。

Q 2 研究計画調書作成にあたって、工夫された点などアドバイスをお願いします。

実は、昨年も同様のテーマで申請したのですが、不採択でした。研究の目的や方法は、昨年と変えていません。変更した点は、①自信を持って書いたことと、②これまでに行ってきたいくつかの実践を記載したことだけです。1つ目は、学長先生からのご指摘でした。控えめに書かずに、「やれます！」「できます！！」の気持ちで、もっと言い切って書くといい、とご助言をいただき、少し図々しい感じで書いてみました。2つめは、これまで作成した教材や授業の様子を写真で入れて、「(5)本研究の目的を達成するための準備状況」に掲載しました。この2点が良かったのかは分かりませんが、同じ研究分野以外の方に分かるように図示したりするのは大切だと感じました。

Q 3 研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

これまで続けてきたように教材開発と実践・評価を繰り返していくのですが、別の展開も見えてきました。昨年参加したアジア比較教育学会で、発表を聞きに来てくださった方がガーナの大学で家庭科を教えていることが分かったのですが、日本の高等学校で実践した内容をガーナでも実践したいと連絡があり、今年度中に実践できるかも知れません。もし、これが実際に実践できたら、また違う角度からのアプローチが見えてきそうで楽しみです。

編集後記

今年度最初の研究推進ニュースレターをお届けします。今年度の研究推進委員会は、宅間雅哉委員長の新体制下、井梅由美子委員、橋元知子委員と、新たに、鈴木公啓委員、田澤が加わった5名、そして陪席に佐久間さん、福本さん、本宮さんの計8名で運営しております。

研究推進ニュースレターは節目の20号になります。本号の発行にあたり、ご多忙中にも拘らず、ご執筆を引き受けいただきました先生方に、委員一同心より御礼申し上げます。どうぞご味読のほど、よろしく願い申し上げます。また、これまでの研究推進ニュースレターの発行に関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

研究推進委員 田澤佳昭